

第五学年

組

番

名前

1 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

六月のある朝、亞紀^(あき)はマンションのベランダでツバメの巣を見つけた。

いつものように目ざまし時計のベルが、もつとねでいたいとうわたしの気持ちをうちくだく。今日も暑くなりそうだと思いつながら着替えをすませ、いつになくベランダに出てみた。いつの間にできていたのか、のき下の一番高いところにツバメの巣らしきものを見つけた。親鳥の顔がちらつと見えた。そのいつしゅん、目があつたような気がした。まるで「おじやまします」、「子育てが終わるまでの間、どうか静かに見守ってください」と言つてるような気がした。

学校に行つていける間もツバメの巣の事が気になり、週に一度しかない図書委員会の仕事をもうつかり忘れてしまふほどだった。

「どうしたの亞紀。」なんて美穂からも声をかけられる始末だつた。「うん、なんでもない。」と答えたものの、ツバメの事は他の人に言つちやいけない気がじていて。いや、そうしたかった。ひみつにしておいたほうがわくわくするし、話をしても美穂には興味なさそうな事だと思つたからだ。学校帰り、下校はんとバラになつた後は早足で歩いた。「はやく家に帰つて巣を確かめたい。」そんな気持ちで、エレベーターをおりてからドアまではわずか十数メートルなのに走つていった。

かぎを開けて家に入つてみると、いつものようにまどのカーテンは開いていた。レースカーテンごしにちよつとどきどきしながら、(3) 巣を確かめた。だいじょうぶ、順調に子育てが続いている。なぜか大きなまどを開けてベランダに出ることはしな

かつた。静かに見守ろう。おどろかじいやいけないと思つた。(4) こんな日々がしばらく続いたかと思つたら、ある日ツバメの巣がからになつてゐることに気付いた。「そうか、子育ては無事に終わつたんだ。」亞紀はちょっとときみしいと思ひながら、ツバメのヒナが元気に親と共に巣立つていつたことに喜びをおぼえた。

それから數日たち、ツバメの事を忘れかけていた夜に夢を見た。あの時のツバメが静かに話しかけてくる。「今日一日だけ飛べるようにしてあげます。やさしく巣を見守つてくれたお礼です。」確かにわたしの両手はつばさになつていて、自転車置き場から飛び立つた。信じられない・・・。ちゅう車場には見なれたパパの車が止まつていて。学校までの道のりをたどつてみると、

いつもの信号、歩道、そして人々。そうか、いつも見ていた小さな歯医者さんの後ろにはあんなに大きな池があつたんだ。コンビニの後ろは烟になつていて、何かの野菜が育てられていた。自分が通つている小学校もおもしろかった。普段は下からしか見られない昇降口の光とりのための小さなドームがあつた。

これつてもしかしたら現実なのかも。そう思えるほど景色ははつきりとしていた。空からの景色なんて見たこともないはずなのに。(5) 空からの景色にすっかり夢中になつていて、亞紀に、ふと考へが浮かんだ。そうだ、おばあちゃんの家に行つてみよう。亞紀のマンションからはかなりのきょりがあり、休みの日にパパの車でしか行つたことがなかつた。でも、どう行けばよいか道順は自信があつたし、何よりも大好きなおばあちゃんの姿を見たくなつた。

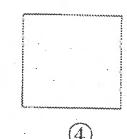
1 気持ちをうちくだくとあります。が、どんな願いを打ちくだくのですか。その願いを次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

ア 学校に行きたくない。
イ 朝ごはんを食べたくない。
ウ もつとねていてほしい。

エ 時計のベルを聞いていいたい。

4 (4)に入る言葉として、もつともあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、その記号□の中に書きなさい。

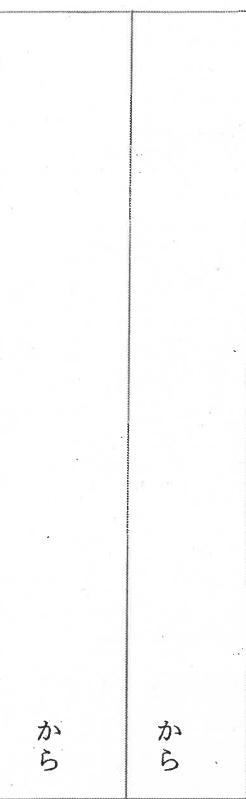
ア だから
イ そして
ウ もしも
エ 次に



2 (2) 言つちやいけない気がしていたとあります。が、その理由として考えられる二つのことを「～から」に続くように□の中に書きなさい。

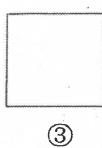
から
から

6 (5) ふと考えがうかんだとあります。が、どのような考えがうかんだですか。その考えをあらわす一文をぬき出し、「～」や「～」も一字分とします。



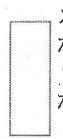
3 (3) にもつともあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

ア そつと
ウ しつかりと
エ 元気よく



4 (4) に入る言葉として、もつともあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、その記号□の中に書きなさい。

ア だから
イ そして
ウ もしも
エ 次に



確認テスト（説明的文章）

第五学年

組

番

名前

〔2〕 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。
 (1)～(10)は段落の番号です。)

- 〔1〕 ラツコの子の成長が、とてもやいのには、おどろきます。
- 〔2〕 生まれて二、三日もすると、浮かされてもじつとしていいないで、手足をバタつかせて、大ききのように泳いでしまいます。
- 〔3〕 自然に泳ぎはじめてしまった、といつた感じです。水面で、ねがえりをうつことも、うまくできるようになります。
- 〔4〕 母ラツコが人になれているばあいは、生まれてまもない子（新生児）が、少しごらい人に近寄つていっても、平気です。
- 〔5〕 そばにきたラツコの子の、指のつめをよく見ると、先が、かぎのようく曲がっています。母親の体にすがりつくとき、しつかりとだきつけるようになつていてるのでしょうか。ラツコの子に、指ををふれると、小さな歯でかんだりします。⁽¹⁾ そつと歯がある感じです。でも二日ほどしてから、まだかませたら、とてもいたいので、びっくりしたことがあります。ちょっとの間に、おどろくほど、かむ力が強くなつていたのです。
- 〔6〕 一ヶ月もすると、かなり泳ぎ、水中へもぐろうとします。でも、もぐりたくても、体に浮力があるので、おしりがポコッ、ポコッと浮いてしまい、なかなか体が水中へ入つていけません。それでもラツコの子は、さかさになつて、一所けんめいに手足をバタつかせ、少しもぐつては、スーと水面に浮いてきます。
- 〔7〕 (2)、ひと息ついては、またバタバタ、スーをくりかえします。
- 〔8〕 そのようすは、じつと見てると、おかしくなつて、思わず笑つてしまります。でも、心の中では、がんばれ、がんばれ、と応援したくなるのでした。

〔7〕 しかし、一度もぐれるようになると、一日といわづ、あつという間にもぐる深さが一メートルから一メートル、といつたぐあいにふえ、(3)にいる時間も、どんどん長くなつていきます。

〔8〕 このころになると、えさにも興味をもつようになり、えさを食べている母ラツコにからみついて、ねなります。気がついた母ラツコが、えさの小さな切れはしを、両手の先にはさんでさしだすと、それをとつて、口にはこび、じやぶつたり、かんだりします。でも、まだのみこめません。

〔9〕 気のはやい母ラツコは、生まれてまだ二、三日しかたつていない子に、もう、えさをわたそうとします。母親がはやめに教えれば、子がえさに興味をもつのもはやく、⁽³⁾ 乳離れのためにはよいのでしよう。子がえさを食べはじめるきっかけは、本能によるだけではないようです。

〔10〕 子は、何日か、えさをかんでいるうちに、こくつとのみこみます。まだほんの、一切れか二切れのえさです。子が、自分でえさを食べるようになれば、もう安心です。

(中島将行「生き生き動物の国ラツコ」誠文堂新光社

〔H22茨城県学力診断のためのテスト〕による。)

- ※1 浮力||水や空気などの中にある物に対してもたらく、その物を上におし上げようとする力。
- ※2 一所けんめい||ありつけの力を出してがんばる様子。
- ※3 乳離れ||子が成長して乳を飲む必要がなくなること。
- ※4 本能||動物が生まれつき持つている性質や心のはたらき。

1 (1) そつと歯があたる感じです。でも、二日ほどしてから、またがませたら、とてもいたいので、びっくりしたことがあります。とあります。この二つの文を一文にして次のように書き直したいと思います。次の□にあてはまる言葉を書きなさい。

そつと歯があたる感じ □ 、二日ほど

□ の段落 ⑩

してから、またがませたら、とてもいたいので、びっくりしたことがあります。

5 次の□の中の文は、文章中のどの段落の後につづきますか。その段落の番号を□の中に書きなさい。

□ の段落 ⑪

2 (2) にはどんな言葉が入りますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。

ア つまり イ たとえば
ウ そして エ しかし

□ ⑧

3 (3) には文章中の言葉が入ります。あてはまる言葉を文章中から二字でぬき出して、次の□の中に書きなさい。

エ ラツコの子は、生まれてちょっととの間にかむ力が強くなっている。
イ ラツコの子は、一ヶ月もすると、かなり泳ぎ、水中へもぐろうとする。
ウ ラツコの子は、えさを食べている母ラツコにからみついで、えさをねだる。
エ ラツコの子は、生まれて二、三日すると、えさをとるようになる。

□ ⑪